介護老人保健施設しおさい

症　例　概　要　利用者：70歳代　男性　要介護1

利用期間　：令和4年　12月～通所リハを利用中

病　　名　：レビー小体型認知症、パーキンソン病

既往歴　　：うつ病

経　　過　：

役場職員を50代で退職後、体調不良のため受診しパーキンソン病の診断を受ける。内向的な性格と、病気になった引け目から周囲との関わりが消極的になり自宅でご家族と関わるだけの生活になる。パーキンソン病代表的症状の運動緩蔓と姿勢保持障害、レビー小体型認知症で多く見られる抑うつ症状、認知機能の変動、起立性低血圧、歩行障害が目立ち転倒することが増える。『本人が人生を楽しめるよう願っている』というご家族の思いに後押しされ、リハビリ・交流目的でデイサービス利用開始。

内　　容

利用開始時は横になることが多く脳トレ等への取り組みも消極的であり、特に『上手く歩けない』ということを気にされていました。また、立ち上がりや動き出しが思う様に出来ず、日常動作が難しくなった事によって、ご本人の生きる自信と意欲が減少している状況でした。

薬の調整が必要なことも理解されており、規則正しい生活や機能維持のための機能訓練を行う事で今の生活レベルの維持は可能である事、精神面の安定を図り、生きる自信と意欲を取り戻せるようサポートしたいと思っている事を伝え、ご本人が最も強く思い抱いていた『上手く歩けるようになる』という目標を立てました。

まず、通所ではパーキンソン病の特性を理解し、体調に応じたサポートを心がけました。体調が良い時、ご本人が歩く姿を撮影し動画を一緒に見て歩く姿をイメージし、リハビリ・機能維持訓練に取り組み易いようサポート。ご本人と一緒に介護職員も、リハ職員から動き始めのコツやヒントの指導を受け、徐々に日常動作の自信へと繋げました。動きの鈍い時は、休憩とフォローの声掛けで、精神的安定を図り安心感へと繋げていきました。安心感から休む回数が減り、利用回数と同時に増えた機能維持訓練の結果、特に力を入れていた歩行機能が安定したことによる自信と意欲から、他者と関わる際も素敵な笑顔が見られるようになりました。

最近では、動画を見て歩行状態や姿勢が良くなっている喜び、介護・リハ職員と共に改善箇所のリハビリ意欲が増した結果、『日光東照宮へ行きたい』と、新たな目標ができました。『Let’s go東照宮』を

合い言葉に、日光東照宮への道のりが始まりました。坂道を想定してのスロープの歩行訓練、次のステップへと繋がっています。

病気の特性や体調に応じたサポートを考えることで安心感を得、機能維持訓練による自信から精神的安定に繋げる事が出来ました。そして、身体症状の把握をしながら目標のサポートをし、生きる自信と意欲へと繋げた結果、ご本人自身が新たな目標を再び持つ事が出来ました。

何より、介護とリハビリの連携こそが最強サポーターであったと感じます。